

京都精神保健福祉士協会

きょうと通信

NO. 66



2008年10月発行

事務局：財団法人 長岡記念財団内

〒617-0843 京都府長岡京市友岡4丁目18の1

TEL 075-951-9201 (代)

FAX 075-954-1210 (代)

e-mail office@kyo-psw.org

HP <http://www.kyo-psw.org/>

【11月例会のご案内】

日時：2008年11月1日（土）14:00～16:45

会場：京都市職員会館「かもがわ」 2階大会議室

京都市中京区土手町夷川上ル末丸町284

075-256-1307 又は 0120-82-5252（フリーダイヤル）

テーマ：障害の違いを超えて、生活ニーズと支援の視点を考える

講師：土屋 健弘氏（京都市北部障害者地域生活支援センター「きらリンク」センター長）

松田 真生子氏（京都市東部障害者地域生活支援センター「だいご」PSW）

今日、障害者自立支援法のもとで、あるいは、法制度のいかんに関わらず、障害の違いを超えて障害者支援を行う中で、重複障害の方、合併症、高齢の方など、従来の枠組みを超えての支援がより一層求められています。また、精神保健福祉の現場だけでなく、これまで以上に、幅広い領域、地域の様々な場で、PSWが求められる役割を担うようになってきています。

そうした中で、知的障害・身体障害の方の支援においては、精神障害の方への関わりと、どのように違うのか、あるいは、障害特性での違いはあっても基本的に違いはないのか、共通するのはどのような内容なのか等、支援の視点について学ぶ中で、PSWの役割について考えていく機会にしたいと思います。

土屋氏には、「知的・身体」の障害者地域生活支援センターとしての日々の活動の中で、ここがけておられること、精神障害者支援のあり方（あるいはPSWの関わり）について思うことを率直に語っていただきます。また、松田さんには、3障害相談支援の支援センターのPSWとして、日々感じておられることについてお話していただき、グループ討議の中で日々の支援のあり方について深めていきたいと思います。

【8月例会報告】

日時：2008年8月23日（土） 14:00～17:00

会場：京都府職員福利厚生センター 第1会議室

テーマ：スーパービジョンの基礎知識

講 師：植田 寿之氏（同志社大学嘱託講師等）

参加者：29 名

「職場の後輩ワーカーたちを、自分はきちんと指導できているんだろうか・・・」。このような不安・悩みから、「スーパービジョンについて学ぶ例会」という今回の企画が生まれました。植田先生をお招きしてスーパービジョンの基礎について学んだ本例会。中堅以上のワーカーさん達の姿も多く見られました。その講義で印象に残った所を、箇条書きで簡単にまとめてみます。

- ・スーパービジョンとは、「結果」ではなく「過程」である。
- ・スーパービジョンは、ソーシャルワークの発展と共に体系化されてきており、ソーシャルワークには必要不可欠なもの。
- ・スーパービジョンの機能の中でも、とくに支持的機能がその土台をなす。ソーシャルワーカーの仕事は非常にバーンアウトしやすいもの。ワーカーのバーンアウト防止が、スーパービジョンの重要な機能。「援助する人は、援助されなければならない」。
- ・スーパーバイザーは、ソーシャルワーク理論と実践との間を自由に行き来できなければならない。そのために、理論を熟知していなければならない。「あなたが今やっていることは、これこれの理論（あるいは倫理綱領）に基づいているんだよ」と、スーパーバイザーに教えられるように（教育的機能）。
- ・スーパーバイザーとスーパーバイジーとの関係（スーパービジョン関係）が、スーパーバイジーとクライアントとの関係（援助関係）に大きく影響する。つまり、スーパービジョン関係が援助関係のモデルになるという「パラレル・プロセス」が起きる。
- ・「人に受け止められている」という感覚（安心）を、スーパーバイジーが絶えず確認できる環境を整えておくこと、それは、スーパーバイザーの重要な仕事である。そうすればスーパーバイジーは、自分が接するクライアントに同様の環境を整えてあげられるだろう。

「日本では、まだまだスーパービジョンが普及していない」と植田先生は言われました。参加者のアンケートからも、「シリーズ化してほしい」等の声が出ていましたので、今後もスーパービジョンを学ぶ機会を作ってゆけたら、と考えています。

（8 月例会担当：宮崎彰造）

【8 月例会感想文】

京都市中部精神障害者地域生活支援センターなごやかサロン
自立支援員 渡辺恵司さん

8 月例会の「スーパービジョン」については以前から関心があったことと、常日頃から P 協会参加者とのコミュニケーション・ネットワークを大切に、なるべく例会には参加しようという意識から今回も参加をした。スーパービジョンは、以前勤務していた地域にて個人スーパービジョンをバイジーとして受けたことがあり、当時の経験・記憶を掘り起こしながらの講義であったため、現段階での自分の知識等について再確認ができた。その講義の中でもバイザー・バイジーの関係性の事例が印象的だった。やはり、しっかりとした日々の信頼関係が必要なことと、個人としての人間性を問われることを改めて認識した。「スーパーバイザー自身、誠実であり、自分自身に対して純粋である必要がある。自分自身の葛藤や不安を認めてこそ、ワーカーに対して誠実に関わることができる」。この領域で与えられた仕事を続けていき、バイザーの立場になる時がくるかもしれないことを考えると、この言葉はココロに止めておかななくてはならないと感じた例会であった。

医療法人三幸会 奥田千草さん

スーパービジョンは日頃から、特に意識することなく、さまざまな場面で受けてきたように思う。今回、スーパービジョンとは何なのかを意識することで、新人である私はソーシャルワーカーとしてどんどん成長していかなければと、改めて考えさせられる良い機会となった。

講義のなかで、おもしろいと感じたのは、スーパーバイザーとスーパーバイジーのスーパービジョン関係が、よく似たかたちでスーパーバイジーであるワーカーとクライアントとの援助関係間にも再現されるということである。これをパラレルプロセスというが、スーパービジョンは援助関係にも影響するのだということがわかり、スーパービジョンの影響力は大きいことを知った。良くも悪くも影響してくることが分かり、自分の成長のためだけではなく、クライアントのためにも良いスーパービジョン関係が必要である。また、ひとつのスーパービジョン関係だけでなく複数のスーパービジョン関係を築くことで、偏らず視野を広く持ったワーカーへ成長していきたい。

【リレー職場紹介】

地域生活支援センターふきのとう 志水正高さん

地域生活支援センターふきのとうは、平成12年7月より精神障害者地域生活支援センターとして開設した。平成18年10月より障害者自立支援法に基づく指定相談支援事業所に移行し、福知山市から相談支援事業などを受託して事業を進めています。3障害対応だが、これまでの経過からこころの病のある方々を主に支援を行っている状況である。

事業内容は、電話、来所、訪問などによる相談受付や生活支援をはじめ、憩いの場の提供や行事の開催、広報啓発活動などを行っており、現在、利用契約をされている59名の利用者の方とそれぞれ確認しながら継続しての支援と地域におられる障害のある方々やご家族などからの相談に職員4名（精神保健福祉士2名（1名は管理者を兼務）、支援員1名（非常勤）、事務員1名）で対応している。

関わりで肝に銘じていることは、「本人が持つさまざまな思いにとことん寄り添い、本人のペースに合わせて動く」である。いろんな問題を同時に抱えているケースの場合どうしてもよりよい生活をとの思い、何らかの結果をとの思いから対応すると結果的にうまくいかないことを利用者から教えていただいたからである。（しかし、緊急を要する時にはどうしても問題解決型の対応をしてしまい、対応後に振り返って大いに反省することもある。）

また、制度移行後、事業所に寄せられる相談者からの相談内容（受診前の段階の状態について、ひきこもり、発症後の復職、借金、失業などの経済的課題、認知症の初期段階、発達障害、高次脳機能障害についての相談など）、相談者の年齢層（10～80歳代まで）や家族構成（単身、高齢要介護者と障害のある子の世帯、共に障害をもつ夫婦と子の世帯、親子で障害をもつケースなど）が多様化し、関係機関などとの連携の重要性やこころの病のある方々に対応できる社会資源の少なさの再認識、また、自身の知識や技術の未熟さ、自分の活動地域の様々な分野の実情を知ることができ、「気づき」と「なぜ?（疑問、問いかけ）」から考えることが多い。でもそのことを大切に、がんばろうと思っている。（疲れてしまっている時もあるが…）

応益負担など多くの問題点を抱える障害者自立支援法の見直しの時期を迎えるなかで、いろんな人と手を結び、改善していくことによりよい地域社会づくりに力を注ぎたい。

【事務局からのお知らせ】

- 「労働実態調査票」は、10月25日までに返信をお願いします！
同封の返信封筒は有効期間を過ぎていますが、「料金受取人払郵便」として有効です。安心してお使いください。返信封筒には、住所氏名は書かずに投函をお願いします。

会員の動向

〔入会〕藤本 通孝（ふじもと みちたか）さん 特定非営利活動法人さまさま YOUYOU 館
〔退会〕砂川 祐司さん 精神障害者福祉ホーム ひびあらた
〔会員数〕2008年9月25日現在 312名

ほっとひと息コーナーVOL.6
～おすすすめ散策ガイド～

「アートを楽しむ京都地図本～KYOTO ART&CULTURE MAP」

（京阪神エルマガジン社、2008年、580円）

だんだんと肌寒くなり秋らしくなって参りましたが、皆さん秋のおでかけのご予定はいかがでしょう？

今回ご紹介するのは、オススメ雑誌です。名前の通り京都の街中で何気なくアートを感じることのできるスポットを紹介しています。手ごろな値段でありながら、美術館からお寺、博物館、劇場、素敵なお店とバラエティに富んでおり、ぶらっとでかけてみたくなります。ながめているだけでもうっとりです。

にぎやかにわいわいと過ごす秋もよいですが、しっとりと京都の町でアートを感じながら、一人物思いにふけるのもよいのではないのでしょうか…。

日ごろの仕事の疲れを、アートで癒しに行きませんか？

三幸会 就労支援準備室 黒岩あいさん



※ほっとひと息コーナーでは、皆様からの投稿を募集しております！
おすすすめ情報がありましたら、事務局にご連絡下さい。どうぞよろしくお願いします。

【編集後記】

今回は、「ほっとひと息コーナー」を担当させていただきました。皆さん是非ご覧下さい。私は、この本の中でも紹介されている左京区にある恵文社一乗寺店に行きたくてしょうがないの

です。文系女子にはたまらない書店です。読書好きの方は是非一度足をお運び下さい。(黒岩)
編集が終わり一安心です。アートで癒しに、Begin コンサートに行ってきます！♪(仲宗根)